【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成20年1月17日(2008.1.17)

【公開番号】特開2007-119459(P2007-119459A)
【公開日】平成19年5月17日(2007.5.17)
【年通号数】公開・登録公報2007-018
【出願番号】特願2006-271146(P2006-271146)
【国際特許分類】
Ａ０１Ｎ　3/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ０１Ｎ　3/02

【手続補正書】
【提出日】平成19年10月26日(2007.10.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
〔実施例４〕本発明を適用可能な切花
切花として、デルフィニウム、カーネーション、リンドウ、ツユクサ、アサガオ、ガーベラ、バラ、ダリア、キク、アマリリス、オキシペタルム、オンシジウム、アルストロメリア、トルコギキョウ、デンファレ、センニチコウの花弁を使用した。これらの種々の花弁を親水性有機溶媒（エタノール）に１日以上浸漬後、保存液として、不揮発性有機溶媒（ポリプロピレングリコール）に１日以上浸漬し、１-ブタノールで表面を洗浄し、合計１６種類の加工切花を作製した。
その結果、デルフィニウム、カーネーション、リンドウ、ツユクサ、アサガオ、ガーベラ、バラ、ダリア、アルストロメリア、トルコギキョウ、デンファレ、センニチコウの加工切花については、生花に近い形態（形状、質感、花色等）を２週間以上にわたって維持していた。また、その他のキク、アマリリス、オキシペタルム、オンシジウムの加工切花については、若干の退色はあるものの、２週間経っても花弁の形状が維持され、日持ちは良好と判断された。
同様に、親水性有機溶媒としてエタノール、保存液として難揮発性有機溶媒（２-メチル-２，４-ペンタンジオール）を用いて（洗浄工程は無し）、上述の１６種類の切花（デルフィニウム、カーネーション、リンドウ、ツユクサ、アサガオ、ガーベラ、バラ、ダリア、キク、アマリリス、オキシペタルム、オンシジウム、アルストロメリア、トルコギキョウ、デンファレ、センニチコウ）の花弁について、それらの加工切花（１６種類）を作製した場合に、若干の退色の見られるものもあったが、いずれの加工切花も１週間以上、生花に近い形態が維持され、日持ちは良好と判断された。